RAS遺伝子解析

検査内容

悪性腫瘍組織検査として　K-RAS、N-RASそれぞれの12、13、59、61、117、146codonの遺伝子変異を解析します。
治癒切除不能な進行・再発の大腸癌患者の治癒に効果が高いとされる抗がん剤利用の治療方針検討に行われる検査です。
RAS遺伝子に変異のない（野生型）の患者に効果が高いとされています。

提出方法

10%～20%ホルマリン水溶液固定組織（6から48時間以内を推奨し病理診断後の検査とさせて頂きます。）
病理組織診断済みのパラフィンブロックでの提出
未染色標本での提出
　遺伝子解析用　ノンコーティングのスライドにて5～10μmの厚さで5枚以上作製して下さい。
　腫瘍確認用　　2～3μmの厚さで2枚提出して下さい。（HE染色を行います。）
※ホルマリン過固定により、遺伝子増幅が検出されない場合がございます。過固定が考えられる手術材料であれば、生検組織での提出が推奨されます。

判定内容

K-RAS、N-RAS共に12、13、59、61、117、146codon変異の有無について報告致します。変異がみられる場合は、その塩基配列を示します。